

事務所訪問

函館新外環状道路、函館・江差自動車道が相次いで開通 高速ネットワークが拡充し、 道南地域の連絡機能強化

函館新外環状道路 空港道路 赤川IC～函館空港IC
函館・江差自動車道 茂辺地木古内道路 北斗茂辺地IC～木古内IC



国土交通省 北海道開発局
函館開発建設部 道路計画課長
武田 祐輔 氏

昨年令和3年3月28日(日)、函館新外環状道路 空港道路 赤川IC～函館空港ICが開通した。そして今年令和4年3月26日(土)、函館・江差自動車道 茂辺地木古内道路 北斗茂辺地IC～木古内ICが開通し、高規格道路が木古内IC～函館空港ICまで繋がった。どちらも、地域住民待望の道路。その整備を進めてきた函館開発建設部に事業の背景や、整備後の効果などお話を聞いた。

——函館新外環状道路 空港道路と函館・江差自動車道 茂辺地木古内道路の整備に関して、概要を教えてください。

今年3月、函館・江差自動車道の「茂辺地木古内道路(北斗茂辺地IC～木古内IC延長16km)」が開通しました(図1、写真1、2)。また昨年3月には函館新外環状道路「空港道路(函館IC～函館空港IC延長10km)」が開通しており、木古内から函館空港までが高速ネットワークで繋がりました(写真3)。

函館・江差自動車道は、函館市を起点とし、江差町に至る高規格道路でこれまでに函館ICから北斗茂辺地ICが開通しています。今年開通した茂辺地木古内道路は、北斗茂辺地IC～木古内ICの延長16km、構造規格は1種3級の2車線で平成6年度に事業化、平成13年度に着手しました。

道南圏は大きな医療機関や商業圏が函館に集中しているため、西部地域から函館への高速道路網は地域住民の方にとって悲願です。産業面では道南の西部地域である松前半島の各地域には、知内のニラや松前の

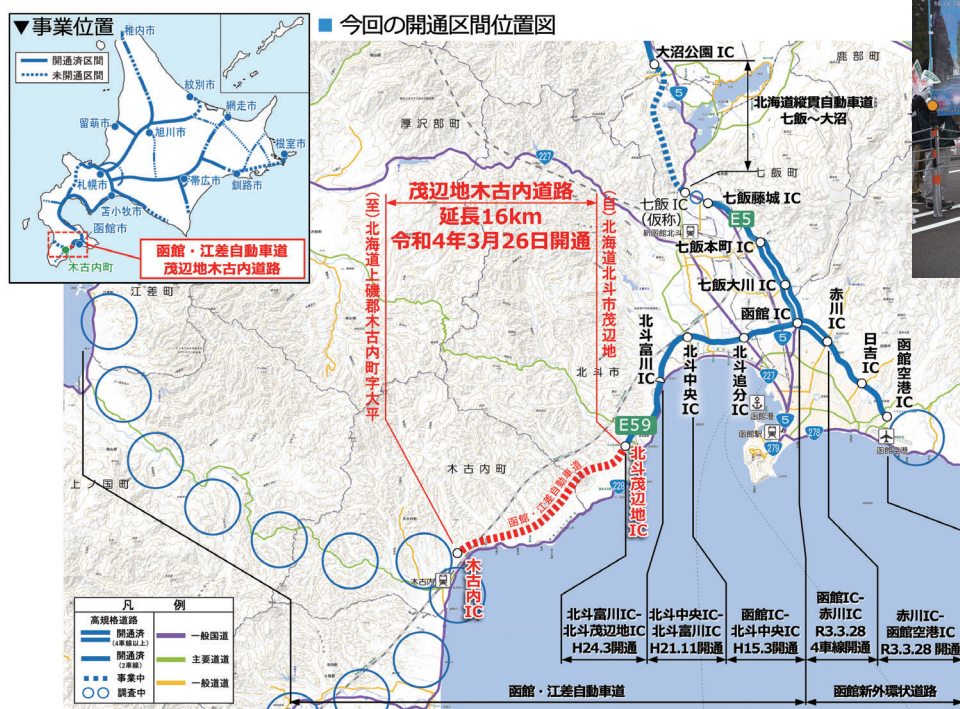


写真1
茂辺地木古内道路通り初めの様子

図1
令和4年3月26日に開通した茂辺地木古内道路を含む、道南圏の高速ネットワーク



写真2 開通した函館・江差自動車道の「茂辺地木古内道路」



写真3 開通した函館新外環状道路の「空港道路」

マグロにとどまらず豊富な農産物や水産品があり、それらの輸送効率化も課題でした。また函館に限らず広域周遊観光の活性化や救急搬送の速達性・安全性向上などの効果も期待されていました。

函館新外環状道路は、函館市内を東西に結ぶ高規格道路でこれまでに函館IC～赤川ICが暫定2車線で開通していました。昨年開通した空港道路は函館ICから函館空港ICの延長10km（函館IC～赤川IC間2.4km含）、構造規格は1種3級で4車線および暫定2車線となっており平成19年度に事業化、平成21年度に着手しています。



写真4 産業道路の空港道路開通前(左)と開通後(右)の様子



写真5 昭和団地通の空港道路開通前(左)と開通後(右)の様子

整備前は「産業道路」と呼ばれている主要道道函館上磯線の渋滞が激しく、それを迂回するために多くの車両が住宅街の市道へと流れ、事故なども頻発していました。そのため渋滞の緩和と地域住民の安全確保は急務でした(写真4、5)。

——整備を進めるなかで、特にご苦労されたのはどんなところでしょう。

茂辺地木古内道路については、地質の悪い箇所があり、湧水も非常に多かったため、盛土やトンネルの施工の際には慎重に施工する必要がありました。

空港道路に関しては、市街地に近い環状道路ということもあり、工事をする上で近隣住民など関係者との調整に苦労しました。一時的な通行規制や騒音もあるなか、地域のみなさんのご理解とご協力をいただき、工事を円滑に進めることができました(写真6)。



写真6 空港道路の工事

——自治体からの要望や期待はどのような声がありましたか？

自治体はもちろん、地域の方々からは「1日でも早い開通を」という強い要望をいただいていた。両道路の開通時期はいずれもコロナ禍の只中でしたが、しっかりとした感染対策を行うことにより盛大な開通式を開催することができました。

地域の皆様からは今回の開通による物流や観光、暮らしに関してなど様々な面への効果を感じるとの声をいただいております、その先の区間の整備にも地域の期待が一層高まっていると感じています。

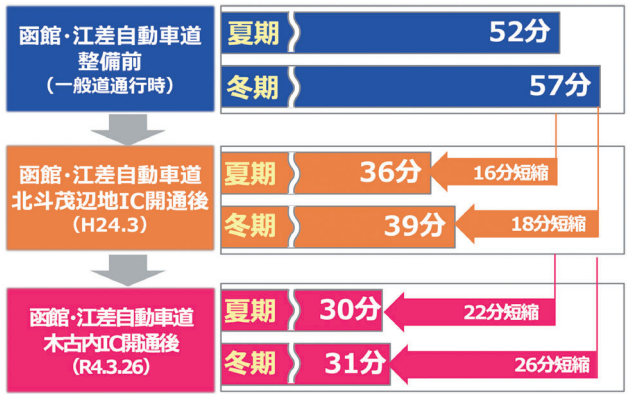
—今回の開通に伴う効果について、教えてください。

空港道路、茂辺地木古内道路の開通によって、函館市～木古内町間の所要時間が約22分短縮され30分となります(図2)。また、函館空港～木古内町間は、所要時間が約33分短縮され41分となったことで様々な効果が期待されています。

観光面では、道南地域は、北海道新幹線、函館港(クルーズ船岸壁)の整備により、近年、観光入込客

数、訪日外国人宿泊客数が増加傾向にありましたが、コロナ禍の影響により大きく落ち込んだ状況にあります。今回の開通により、函館空港から主要観光地までのアクセス強化が図られるなど、アフターコロナにおける道南地域の観光活性化が期待されます(図3)。

物流などの産業支援については、例えば道内シェアの約7割を占める知内町のニラは、函館空港・函館港を經由して道外に出荷されており、近年は、ビニールハウスの増設、出荷施設のライン追加により、生産量の増加に力を入れています。道内シェアの約8割を占める道南



資料：H27全国道路・街路交通情勢調査、北斗茂辺地IC～木古内ICは70km/h、冬期速度はH28～30年度ETC2.0プーブ速度(通常期:4～11月、冬期:12～3月)から算出した冬期低減率を通常期速度に乘じ算出

図2 函館IC～木古内IC間の所要時間の変化



図3 道南地域の観光施設・交通拠点



図4 農産品・水産品の輸送状況



図5 三次医療施設への救急搬送ルート



写真7 高速ネットワークを生かして、道南の新鮮な野菜や水産物を道外へ素早く輸送

地域のマグロは、約4割が函館港から東京に出荷されており、豊洲市場でも身焼けが少ないと高評価を得ています(写真7)。

今回の開通により、道南地域における主要な農産品や水産品などの輸送時間の短縮、冬期の安定輸送など広域物流の効率化が期待されます(図4)。

空港道路の日吉IC近傍の函館臨空工業団地には、近年道外向けの精密機器の出荷と売上げが伸びている企業が立地しています。道外への製品出荷には、道南圏の物流拠点である函館空港・函館港を利用しており、今回の開通により物流拠点までの所要時間が約半分になるなど、流通利便性も向上します。

医療や緊急時の避難・救援については、高次医療施設が集中する函館市では、近年ドクターヘリ搬送が増加しています。今回の開通で搬送先の病院からドクターヘリ待機場所である函館空港までのドクター移動ルートに空港道路が加わったことで、函館市内への所要時間が短縮され、迅速な救急搬送及び重症患者の救命率向上が期待されます(図5)。

また、茂辺地木古内道路に並行する区間には、津波浸水想定区域が存在していますが、開通により津波浸水想定区域を回避する避難及び救援物資輸送ルートが形成されるほか緊急時における避難場所を提供します(図6)。

空港道路と並行する道道函館上磯線(通称:産業道路)では、慢性的な交通混雑や、市道の交通量増加による、交通事故についても開通により、交通転換が図られ、混雑の減少や交通事故の低減、通学児童の安全性が向上しています。



図6 緊急時の避難ルートと開通済み区間の緊急避難施設

——今回の開通で、道南エリアの東西がつながりました。北海道縦貫自動車道の七飯～大沼間も期待されますが、工事の進捗状況を教えてください。

北海道縦貫自動車道は七飯～大沼間の10kmが事業中ですがこのうち7kmが1本のトンネルで、完成すれば北海道で最も長い道路トンネルになります。長さもさることながら、非常に難しい地質となっており慎重に工事を進めています。現在はトンネル内で事故などが発生した場合に使用する避難坑と呼ばれる緊急用のトンネルを掘っているのですが、現在3分の2ほど掘削が進んでいる状況です。今年度からは本体のトンネル工事を発注するなど、早期の完成に向けて取り組んでいます。

——茂辺地木古内道路と空港道路に関して、今後、さらに期待する効果はありますか？

観光交通に関しては、長引くコロナ禍でまだ完全に復活したとは言えません。今年のGWはかなり以前の水準まで戻ってきていると感じましたが、訪日外国人観光客に関してはまだまだこれからですので観光面での効果はまだまだ伸びしろがあると感じています。

道南は函館だけでなく、多くの魅力的な地域がたくさんあります。道南エリアの移動については、空港道路や茂辺地木古内道路の開通で、所要時間が大幅に短縮されました。おいしい食べ物や雄大な自然だけでなく、文化遺産も多くて歴史的な深みもある道南エリアにお越しいただき、北海道の多様な側面を見ていただけたらうれしいですね。